

# 書評

## 齊藤 享治：日本の扇状地

古今書院、1988年、280ページ、3200円

扇状地は、河岸段丘と並んで最もポピュラーな地形である。札幌市が扇状地の上に発達した都市であることは、市内に住む小中学生の多くも知っている事実である。これほどよく知られた地形であるが、判らないことも結構多い。かって十勝団体研究会で十勝平野の調査をしていた際に、『いったい扇状地の砂礫層の厚さは何メートル位あると、扇状地と呼んでもよいのであろうか?』と言うことが問題になった。『河川が山間部から平野に流れ出るところに、運搬して来た大量の砂礫を堆積して形成される堆積地形が扇状地である』と言うふうに教科書で習った我我にとって、十勝平野に発達する扇状地とされる地形が、全く砂礫の載っていない裸の面であったり、80メートル以上の厚い砂礫層をのぞかせていたりとそのバラエティに驚かされたものであった。これに加えて、扇状地面の大部分が段丘化しており、現世の扇状地が意外に小規模なもので、また堆積物も薄いのではなかろうかといったことも問題になった。さらに扇状地の形成の原因についても、日高山脈の隆起が主原因とする説や氷期の気候変化を取る説があつて議論が百出した。こうしてよく知られた地形ではあるが、一筋縄ではいかないのが扇状地であると認識させられた次第である。この度齊藤享治会員が、このような我国の扇状地問題に真っ正面から取り組んだ労作を『日本の扇状地』として刊行されたので、会員の皆さんに紹介したい。

## 抄録

Short, A.D. (1988) : The South Australia Coast and Holocene Sea-level Transgression.

Geographical Review, Vol. 78, (2), 119-136

(南オーストラリア海岸と完新世の海進)

掲載誌は海岸地形の特集号で、砂浜海岸地形の論文が多く掲載され、紹介論文もその1つである。論者は、南オーストラリア海岸が内陸が乾燥地域で河川の流入が少ないと、外海が南極海で波力(wave energy)が大きいことより、砂浜地形の堆積作用がほぼ純粋に海波、潮流、風の営力で関係づけられる地域として位置づけ、完新世における海水準変化、おおまかには海進期(rising stage=10000年前~6000年前)と停滞期(stillstand=6000年前~現在)の海水準変化の過程における砂浜地形と発達段階について論

本書は高い内容をもった日本の扇状地の地形学的研究書であって、日本の扇状地ハンドブックと言う意味で書かれた本ではないが、一般読者にたいしても利用し易い心ざかいがなされている。それはこの種の本では珍しいが、序章中に「扇状地に関する『なぜ』」として45項目の問題点が表示され、各項目に関する記載箇所が分かるようになっている。これらの回答も終章中に表としてまとめられているという具合である。

本書は『1、序章』『2、日本の地形形成環境』『3、扇状地の形成過程』『4、日本の扇状地』『5、扇状地研究小史』『6、扇状地分布論』『7、扇状地発達論』『8、終章』の8章から構成される。本書の中心をなすのは6章と7章で、扇状地の形成から分布の条件が議論され、扇状地は今後どうなっていくかという将来の予測にまで至っている。終章には扇状地研究上の多くの課題が整理されており、また巻末には10頁にわたる計測値が示されており研究者にとって役に立つことが多い。著者の日ごろの地道な研究ぶりがしのばれる好著である。ひろく会員各位の一読をお奨めしたい。

(野川 潔・北海道教育大学岩見沢分校)

## 録

じている。まず空中写真と現地調査により、砂浜地形の分類をする。すなわち、a. 潮間低地(tidal flat), b. chenier(適訳なし、aとcの中間型), c. 砂堤列(beech ridegs), d. 前浜砂堆列(foredune ridges), e. 前浜砂堆列+砂丘(foredune ridges-secondary dune), f. 初期砂丘(primary dunes), g. 海崖砂丘(primary dunes-, cliff top dunes)の7つのタイプに分けられ、またこれは形成當力から波力の増大する順になり、それぞれ形成開始後の過程で3つの時期で形態分類を行っている。波力の強さにより、a~dは砂礫の堆積で前進、f, gは侵食による後退、eは前進期、後退期の混合型の過程にあり、どのタイプをとるかは海岸線の形(外海、内海、湾、岬など)で支配された波力の違いで決定されるとしている。こうした営力メカ

ニズムを前提に、海水準変化との関係で時期的にどのタイプの砂浜が配置しているか、<sup>14</sup>C年代測定資料を用いて論じた。例えば、a～dの前進堆積型砂浜は6000年前以降の形成で、とくにcの砂堆列は4000年前から2000年前の間に

集中して形成規模も大きく、これ以後発達は停滞の傾向にある。

(大内 定・北海道教育大学札幌分校)

## 会 報

1988年度

### 1. 春季大会記事

1988年度春季大会は、6月12日(日)に札幌市中央区民センター・視聴覚室において次の通り開催された(参加者24名)。

#### ・研究発表

飯田 精一(北海道教育大附属札幌中)：ダム開発と水利調整

寺谷 亮司(北海道大文学部)：滝川市における支店と事業所の集積量と特性について

下川 和夫(札幌大女子短期大学部)：北海道における雪食作用研究の現状と課題

山下 克彦(北海道教育大札幌分校)：イギリス地理教育の最近の動向

進藤 賢一(札幌大)：ユタのハイテク企業

#### ・総会

1987年度決算報告、1988年度予算案および事業計画が提出され、承認された。事業計画に関して1988年度秋季大会は、札幌地理サークルとの共催で開催することが確認された。

#### 1987年度決算

##### (収入)

縁越金 96,480円

会費収入 426,200

雑収入 87,150

(雑収入内訳：広告料80,000 会誌

売却1,500 預金利子5,650)

計 609,830

##### (支出)

会誌(No.62) 390,000

事務費 18,018

通信費 55,090

謝礼 2,139

大会補助 15,000

会議費 2,162

予備費 1,700

計 484,109

次年度縁越金：125,721円

### 1988年度予算案

#### (収入)

縁越金 125,721円

会費収入 300,000

雑収入 111,500

計 537,221

#### (支出)

会誌(No.63)印刷費 400,000

事務費 20,000

通信費 55,000

謝礼 15,000

大会補助 15,000

会議費 5,000

予備費 27,221

計 537,221

#### ・大会記念講演

関 秀志氏(北海道開拓記念館)

演題：「松浦武四郎について」

### 2. 秋季大会記事

1988年度秋季大会は、10月16日(日)に「札幌地理サークル」との共催で札幌市南部において巡査を中心として、次のテーマとコースにより開催された(参加者29名)

・テーマ：「札幌市南郊の自然と人文－最近の変貌を探る－」

・コース：(9:00、地下鉄真駒内駅集合)－真駒内団地－石山陸橋(河谷地形)－石山地区(軟石採石場跡)－白川地区(果樹栽培、淨水場)－簾舞地区(駅跡、定鉄旧簾舞駅跡)－砥山地区(リンゴ栽培農家)－豊滝地区(園芸、養豚農家)－定山渓ダム－定山渓温泉市街(市街地の近年の変化、昼食、休憩)－石山－常盤地区(札幌市芸術の森)－滝野自然公園－有明地区－真栄団地－清田団地－福住団地－平岸(地下鉄靈園駅)－大通西3丁目(16:00解散)

・案内者：野川潔(北海道教育大岩見沢分校)、山下克彦(北海道教育大札幌分校)、高平順夫(藤女子

高校), 進藤賢一(札幌大), 大内定(北海道教育大札幌分校), 浜本武司(北海道教育庁), 斎藤享治(北海学園大), 山内正明(藤女子高校)

巡査は大型貸切りバスを使用して行われ, 札幌市南部のかなり広い地域を巡ることができた。札幌市北郊地域について1986年度秋季大会で巡査を行っており、今回は南郊地域について近年の地域変化をみるとこととした。

定山渓温泉に至る国道235号沿線の豊平川中流域は、石山南・藤野地区の急激な宅地化(とくに藤野・十五島公園地区)にあって、周辺の農業地域(簾舞・砥山・豊滝地区)の最近の状況変化が焦点であったが、果樹栽培(リンゴ、なし、ぶどう), 養豚、養鶏、園芸などの農業がここ10年来依然継続しており、とくに果樹栽培農家が戸数は少ないものの残存し、独自の販路の開拓、道路沿線での直売により現在残存し得る高収益を上げている。こうした状況をリンゴ栽培農家の瀬戸照雄氏(瀬戸照雄農園経営)宅で聞き取り、説明をいただいた。

このあと、完成間近の定山渓ダムを見学、沈水後は再び見られない堤裏側のダム底を視察、ダムの立地条件について討論を行った。定山渓温泉市街では、「札幌の奥座敷」といわれるものの、近年の道内各地の観光地開発とレジャー産業の進展とともに、入り込み客数の伸び悩みなど相対的に観光地・保養地としての地位低下がみられ、これらの点で市街地、観光施設の視察の上討論を行った。

昼食後は石山南、滝野、有明、真栄・清田団地方面を巡り、定山渓地区とは対照的に札幌市芸術の森、道立滝野自然公園など新しい札幌市民の憩いの場として、また石山南地区、清田・真栄地区の急激な宅地化、大規模豪園、ゴルフ場など、札幌市最南部地域の地域開発状況を視察した。ここでは、これらの開発がかなり大規模に行われているのが特徴であるが、公園化はともかくそれ以外では自然破壊(ここでは軽石流地域での土壌保全の問題)、宅地化にみられるスプロール化と環境整備の諸問題などが討論された。

さわい晴天温和な日和に恵まれ、巡査では活発な討論が行われた。ご説明いただいた瀬戸照雄氏に感謝申し上げる。

### 3. 1989年度秋季大会について

1989年4月1日の幹事会において1989年度秋季大会を東北地理学会(事務局:東北大大学理学部地理学教室)と共催で開催することに決定した。正式の決定は1989年度本学会総会における事業計画の承認によるが、以下の日程になる見込み。

期日: 1989年9月23日(土、祝日), 24日(日), 25日(月)  
会場: 北海道教育大学札幌分校

日程:

9月23日(土) 12:30~13:00 大会参加受付

13:00~17:00 研究発表

9月24日(日) 9:30~10:00 大会参加受付

10:00~12:00 研究発表

12:30~13:00 休憩

13:00~17:00 研究発表

9月25日(月) 9:00~17:00 野外巡査

巡査の詳細は未定であるが、札幌市内の巡査が検討されている。

### 4. 教員免許法改正に伴う免許状(高等学校地歴科、中学校社会科、小学校各免許状分)取得に関わる大学専門教科の要望について

1987年末決定された小学校・高校における新教育課程実施(このことについて1987年秋から年末にかけ本学会は要望書を関係機関に提出)に伴い、これに見合った大学での小・中・高各学校の免許状取得に関する専門教科の見直しが必要と文部省で改訂作業が進められている。本学会では、日本地理学会の要請もあり、以下の要望書を関係機関に提出した。

要望先と文面は次の通り。

#### 要望先(敬称略):

文部省助成局長	倉地 克次
同 審議官	逸見 博昌
同 教職員課長	佐々木正峰
同 初等中等教育局長	古村 澄一
同 審議官	熱海 則夫
同 高等学校課長	森 正直

#### 文面:

昭和63年12月12日

殿

北海道地理学会

会長 野川 潔

#### 要 望 書

去る昭和62年12月24日に教育課程審議会の答申が出されました。現在は、答申に基づいて、新しく誕生した地歴科各科目の学習指導要領の作成が進行していると聞き及んでおります。また、それに伴って教育職員免許法関係の法律および政令、省令等の改正作業も始まっていることと推察します。

そこで、本学会としては、高等学校地歴科地理の二級免許状(免許法が改正されれば名称は変わります。)の取得に当たって必要な教科専門単位数の基準を次のように改めて頂きたく、要望書を提出しますので御検討のほどお願い致します。また、小・中学校課程についても若干の要望を添

えましたので合わせて御検討頂ければ幸いです。

#### [要望事項]

1. 高等学校地歴科の免許状取得に必要な教科専門科目の基準、単位改正にあたっては、今回の答申の趣旨に沿って、歴史と地理をともに専門的に教えられる教員の養成が実現できるよう、また両者の間に均衡を失することがないよう御配慮をお願いいたします。
  2. 現在、社会科の高校二級普通免許取得に必要な教科専門科目の単位数が 20 単位であるのを、増歴科免許状取得については、24 単位に増やして頂くよう御配慮をお願い致します。
  3. 高校地歴科免許状取得に際し、地理学の最低必要単位数を 12 単位（現行は 6 単位）にして頂きたく御配慮をお願い致します。
- なお、その内容については下記の通りです。
- 自然地理学 2 単位、人文地理学 2 単位、日本地誌 2 単位、世界地誌 2 単位、地域研究 2 単位、地図学・地図演習 2 単位
4. 中学校の社会科免許状取得に際して必要な教科専門科目の単位数については従前通り 3 分野の間で均衡を失すことのないよう御配慮をお願い致します。
  5. 小学校課程については、社会科（特に本学会としては地理的内容にかかる部分）の基礎・基本事項を正しく教えられる教員を養成できるよう、教科専門科目の履修内容を充実して頂きたく御配慮をお願い致します。
  6. 教員の現職研修計画立案にあたっては、地理学関係の内容を必要に応じて均衡を失すことなく取り入れるよう御配慮をお願い致します。

#### 「補足説明と理由」

今回の教育課程審議会の答申の中で「高等学校地歴科設定の趣旨とねらい」について、

「国際化の進展が著しい今日、歴史・地理学を重視し、日本及び世界の各時代や各地域の風土、生活様式や文化、人々の生き方や考え方などの学習を通して……」と述べています。

また、文部省が公表した「高校歴史・地理教育の審議の経緯」には、

「現在、高校においては、社会科免許状により必ずしも歴史・地理専攻等ではない者でも歴史・地理の教育を行うことが可能となっているが、地歴科の独立に伴い免許法を改正し、地歴科の免許状を新設して、より専門的な研究を行った教員による地歴教育を行うこととする。このことは地歴教育の充実のためにも必要なことである。」ともあります。

以上の趣旨を生かすためには、社会科から地歴科への移行にともない、余裕ができた教科専門科目の単位数の

中で、歴史だけでなく、地理も増やして頂くことが不可欠です。

特に地理・歴史の双方にかかる各地域の風土の基礎的認識を養うためには、従来社会科の中に置かれているが故に軽視されがちであった。「自然地理学」や「地図学」の学習が重要な意義を有しています。風土だけではなく、日本および世界の各地域の生活様式や文化・・・・・を含めた学習を指導できるようにするために、「世界地誌」「日本地誌」そして「地域研究」を少なくとも学ばせておくことが是非必要であると考えています。

#### 5. 他学会、研究会の動向

国際教育シンポジウム '89 札幌会議「異文化理解と教育－北海道からの国際交流」

開催期間：1989年6月30日（金）～7月3日（日）

会場：北海道教育大学札幌分校（札幌市北区あいの里5条3丁目1）

主催：北海道教育大学札幌分校・国際教育シンポジウム実行委員会

委員長 谷本一之（札幌分校主事）

副委員長 伊藤隆一（札幌分校教授）

副委員長 三澤正博（札幌分校教授）

および文部省

後援：北海道教育委員会・札幌市教育委員会・社団法人北方圏センター

協賛：北海道新聞社

開催経緯：札幌分校では、かねてよりアラスカ大学やハーバード大学と教育制度や僻地教育等の比較研究を通じて研究交流を行ってきたが、1988年に両校および瀋陽師範学院と正式に学術交流協定を締結した。また、同年からロンドン大学との協定に基づき同校の日本学科の学生を受け入れて日本語および日本事情の授業を開始するとともに、研究者の交流にも着手しており、カナダのカルガリ大学との交流も具体化しつつある。これらの姉妹大学との研究教育の交流を一層実質化し、深化させるために、いずれも概ね北方圏に位置するという共通点を前提とし、各地域の教育・文化・経済的分野における類似性と独自性の総合的検討を、各校の研究者が緊密に協力して実施することが適当であると考えられるに至った。さらに、この構想に関心のある教育大学他分校および他大学・学校の研究・教育者の参加を得ることによって、研究教育交流のネットワークが充実することを期待している。

開催目的：第一の目的是、北海道と自然および社会経済的条件において類似する北方圏諸地域からの研究者との討論を通じて、これらの地域の教育と文化、民族および社会経済的領域における特徴を深求することにある。つぎに、これを踏まえて、特に教育方法、民族および地域文化の維持・発展等に関する研究の推進のための提言を行う。さらに、

北海道教育大学の特性を活かして、国際交流の意義および促進の方法を検討する。

開催内容：シンポジウム前半では広く市民・学生も参加する企画として記念講演およびパネル・ディスカッションが行われるが、後者は北海道や日本を研究対象としている外国人研究者をパネラーに迎え、日本語を用いて、とくに異文化理解の意義および問題について討論する。

後半では、参加者は、下記の5分科会に別れ各々5名前後の専門研究者の報告をもとに討論を深める（日本語使用または通訳付）。分科会は、主として各國の教育改革の問題を比較検討する「教育」セクション、地域文化や少数民族問題を検討する「文化・民族」セクション、北方圏地域における社会経済的問題を扱う「地域問題」セクション、教育現場における国際交流についてアラスカ、カナダ側と日本側の担当者・経験者を招いて討論する「学校交流」セクションおよび日本語教育の方法と展望について、日、英、韓の第一人者を迎えて検討する「日本語教育」セクションによって構成されている。

参加予定外国人研究者：

Gerald Mohatt	米国、アラスカ大学教育学部長
William H. Parret	米国、アラスカ大学フェアバンクス校（比較教育学）
李 放	中国・瀋陽師範学院（教育学）
劉 樹範	中国・ハルビン師範大学（比較教育学）
David Hughes	英国、ロンドン大学東洋アフリカ学部（民族音楽部）
Brian Moeran	英国、ロンドン大学東洋アフリカ学部（社会人類学）
Richard Edmonds	英国、ロンドン大学東洋アフリカ学部（歴史地理学）
Stephan Kaiser	英国、ロンドン大学東洋アフリカ学部（日本語教育）
Graham Humphrys	英国、ウェールズ大学スォンジ校（経済地理学）
李 賢起	韓国・高麗大学（日本文学）
Lorna P. Cammaert	カナダ、カルガリ大学副学長（学術交流担当）

[その他、ソ連、中国からの参加が予定されている]

一般参加：市民・学生の参加を歓迎している（無料）。記念講演およびパネルディスカッションは自由参加方式、分科会への参加は事前に連絡することとしている。

シンポジウムに関する問い合わせ・連絡先：常本照樹（国際教育シンポジウム運営委員長）宛

〒002 札幌市北区あいの里5条3丁目1 北海道教育大学  
札幌分校憲法学研究室

Tel 011-778-8811 内線415

#### 札幌自然地理・人文地理セミナー

この研究団体は、1964（昭和39）年に結成され、本年で25年になる。現在所属会員数は、自然地理セミナーが33名。人文地理セミナーが22名。設立の経緯は、1964年に北海道で初の日本地理学会が開かれ、これを契機に種々の学会や研究機関に発表するためのトレーニングとして、また各個人の研究や巡査の成果を形式ばらず話題提供をする場として発足した。

構成員は、7～8割が大学（短大含む）、あとは高校や研究機関の各先生である。当初は、今日のようにワープロやOA機器のないころであり、また情報量の少ないころでもあったから発表方法は、模造紙やマジックインクを使用したり、個性的なものが多かった。多いときで年5～6回の会合を持っていたが、近年は多忙もあって回数は若干減り気味である。通常、自然、人文とで別個に開催しているが、1月は新年会を兼ねて合同で行っている。自然、人文に共通する話題も多く、合同による開催の機会を増やすことも考えられている。

最近の開催状況：

##### 〈自然地理セミナー〉

[1988年10月] 岩崎一孝（北大文学部）：ザンビアの自然環境 [1989年1月] 佐藤謙（北海道学園大）：渡島大島植物紀行

##### 〈人文地理セミナー〉

[1989年1月] 古賀正則（招待）：イギリスにおけるイングリッシュ「変動するヨーロッパ社会」

#### 札幌地理サークル

会長 高平順夫（藤女子高校）、事務局校 藤女子高校（高平順夫、山内正明）、会員数 おもに札幌圏を中心に約70名。63年度は8回の例会が行われた。63年度は、札幌市内及び周辺地域の巡査を中心とした例会が計画され、6月に山鼻地区、7月に発寒工業団地、9月に手稲前田地区、さらに10月には北海道地理学会との共催で、札幌南郊地域のバス巡査が行われた。元年2月には、小野有五氏（北大・環境科学研究所）を迎えて「環境としての地形」と題して講演が行われた。元年5月には会誌22号が刊行され、「コンピュータグラフィックスを利用した教材開発」（中山弘章）など11篇の研究発表が掲載されている。その他、毎月2回輪読会が行われており、63年度からは「百年、千年、万年後の日本の自然と人類」第四紀学会編（古今書院）を講読した。元年度からは「最近の地理学」坂本英夫、浜谷正人編著（大明堂）の講読を開始する。

#### 北海道地理教育研究会（道地教研）

会長 岡本次郎（北海道教育大学旭川分校）、事務局 上野広克（上磯高校）、会員数 約50名。全国組織の地理教育研究会の北海道サークルとして結成され、昨年20周年を

を迎えた。「子供がやる気をおこす社会科教育をめざして」をテーマに毎年合宿研究会を行っており、地域、日本、世界地理、平和教育などを主題にした研究討議を深めてきた。63年1月に「新版 世界をどう教えるか」を出版し、8月には20周年記念誌を発行した。

#### 北海道高等学校地理教育研究会（道高地研）

会長 前田武男(留萌高校)、事務局 菊地正義、太田真(札幌稲北高校)、会員数 約150名。全道の高校地理教諭からなる研究団体で、昭和47年に発足した。63年度は7月に美瑛町大雪青年の家を会場に、噴火直前の十勝岳周辺と富良野市周辺の巡査を含む研究大会が開かれた。研究刊行物としては、社会科教材シリーズ第6集「地理教育と環境学習」、道高地研だより第17号が発行された。また、平成4年度を目標に仮称「北海道の地理」の刊行をめざして準備がすすめられている。

#### 北海道地理教育研究会（北地研）

会長 東谷清次(北海学園北見大学)、事務局 山川利勝(札幌南陵高校)、道内の小・中・高校の社会科教諭により構成される地理教育団体で「地理教育の小・中・高校の連携」を一貫したテーマとして活動している。63年度は8月16日、17日の両日、小樽市で第29回大会が開催された。この大会は本会が初めて義務教育の小学校を主管校として開催したもので、講演、研究発表のほか、小樽運河、市立博物館、祝津青山家、さらに余市町周辺の文化遺跡などを巡査し、地理、歴史学習を深めた。

#### 北海道教育地図研究会（地図研）

代表 中村 敏(札幌市立真駒内中)、事務局校 札幌市立新川中央小学校、会員数 約300名。道内に7つの支部をもつ、小・中・高各校の地図研究を中心に活発な教育実践活動を動を行っている。11月には「変貌する北部地域を訪ねて」というテーマで石狩北部地域を中心に、石狩湾新港、ノボ生化学工場、スウェーデンヒルなどの巡査が行われた。また10月には恒例となった第9回の札幌市児童生徒社会科作品展が市民ギャラリーを会場に開催された。その他、授業研究会も開かれ、11月には札幌市立三角山小学校の小笠原啓教諭が5年生「くらしと公害」について千葉市のせんそくを通しての公害学習の展開を発表、元年3月には、道教大付属中の飯田精一教諭が中学1年「地形図との出会い」について、札幌市と仙台市を比較しながら読図学習について発表した。

(各事務局からの報告による。上記のほか道内で地理研究・地理教育などの会があれば、連絡いただきたいと思います。)

#### 6. その他

##### ・会員消息 (会誌62号掲載以降、順不同)

入会：相原靖(所属 札幌丘珠高校 〒065 札幌市東区北丘珠1条2丁目 住所 〒060 札幌市中央区大通東11丁目 ラボール大通東1005号)、畠山義臣(所属 余市町東中学校 〒046 余市郡余市町朝日町71 住所 〒048-25 小樽市蘭島1丁目244)、高橋一男(所属 豊富高校 連絡先 〒098-41 天塩郡豊富町上サロベツ475同左)、所属変更：大澤照雄(八雲町八雲小学校→兵庫教育大学・院 連絡先 〒673-14 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学学生寄宿舎10-107)、澤田芳一(石狩高校→弟子屈高校 連絡先 〒088-32 川上郡弟子屈町弟子屈原野41線西18-1同左)、實清隆(富山大学教育学部→奈良大学文学部 連絡先 〒631 奈良市宝来町1230 同左)、武石文人(札幌啓成高校→札幌学院大学(非) 〒069 江別市文京台11)、武田英俊(紋別北高校→釧路東高校 連絡先 〒088-06 釧路郡釧路町富原3-1同左)、大丸裕武(北海道大学環境科学研究所・院→農水省林業試験場防災部 〒305 茨城県稲敷郡茎崎町松の里1 住所 〒305 つくば市吾妻1丁目1311-7-603-804)、信岡貢(札幌市桑園小学校→札幌市定山渓小学校 〒061-23 札幌市南区定山渓温泉東4丁目308)、橋本敏昭(札幌市中の島中学校→札幌市上野幌中学校 〒003 札幌市白石区上野幌2条3丁目910-12)、広瀬隆人(雄武高校→道立砂川少年自然の家 〒073-01 砂川市北光496 住所 〒073 滝川市東町3丁目7-7)、岡本次郎(北海道教育大学旭川分校退職)、設楽寛(東北大学理学部地理学教室退職、富士大学(非))、藤木忠美(札幌女子短期大学(非)退職)

##### ・学会事務の電算化について

すでに、封筒の宛名ラベル、会費請求紙片でお気付きの会員もおありかと考えるが、本学会は1987年4月より学会事務、とくに会員の登録と整理に関してパソコンによる電算化を実施している。電算化により、手作業部分による事務が大幅に合理化され、迅速に処理可能となった。電算化の大まかな内容は以下の通り。

プログラム作成：1986年11月～1987年3月 作成者 大内定(学会事務局)

プログラム言語：MS-DOS版N88-BASIC、一部機械語

日本語入力：NECDIC.SYS

適用機種：NEC PC-9800シリーズ、EPSON PC-286シリーズ

ユーザーズメモリ 512 KB以上

取扱年度：起点1973年度、終点2012年度(40年間で

インストール時に起点を任意設定)

登録可能員会員数：500名(5インチ2HD1枚。バックアップファイルと同じディスクに記録しなければ約800名、ハードディスクを使用すれば更に多人数)

登録(入力項目)内容：

会員→氏名、氏名の読み、所属、所属先郵便番号、所属先住所、所属先電話番号、自宅郵便番号、自宅住所、自宅電話番号、通信物郵送先希望(所属先が自宅)、地方別、入会年、会員資格(学生会員・一般会員別および資格開始年度)、配布会誌No.、納入会費(納入年月日、納入額、分納を考慮し各1年度に2度入力可能)

顧問(名誉会員)→会員の登録項目で資格は顧問就任年とし、あとは地方別、配布会誌No.、会費納入を除いたもの

会誌交換機関→機関名、機関の読み、地方別、郵便番号、住所

おもな機能：新規登録、修正(各入力項目を任意に修正・追加)、登録削除(削除しても退会年を入力してデータ保存可能)、会員検索・データ表示(読み、地方別、所属別、五十音順一覧別)、会誌交換機関検索(読み、地方別、入力順、五十音順)、顧問の表示、会費納入率の計算表示(任意の単年度)、会費納入率の計算表示(任意の多年度)、印刷(会員名簿<そのまま印刷所に入稿可能型>、A4判4×5枚規格宛名ラベル<全員、地方別地域別会員、会誌発送該当会員および会誌交換機関、

各手渡し分除去可能>、会費未納者および未納額通知票、同一覧、会誌交換機関一覧)、年会費設定および修正、バックアップファイル作成、外字作成・登録(画面用16ドット、プリンタロード用24ドット)

なお、パソコンは事務局の置かれる北海道教育大学札幌分校地理学研究室のものを空いている間に借用している。

・学会よりの主な会誌配布先(交換も含む)：日本地理学会、人文地理学会、東北地理学会、福島地理学会、北海道立文書館、道立図書館北方資料室、北大図書館北方資料室、北海道教育大本部図書館、札幌大学図書館、北海道開拓記念館資料室、古今書院編集部、シカゴ大学極東文化研究所資料室、国立国会図書館

#### ◎ 学会事務局からのお願い

・会費納入のお願い

1989年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員には、納入につき特段のご協力をお願い申し上げます。納入額は、1989年度春季大会会告通知に同封してお知らせしております。

なお、行き違いでお支払いの際はご容赦下さい。

・所属や住所の変更があった会員には両電話番号もお書き添えの上、隨時事務局までご連絡下さい。

## 会

第1条 本会は北海道地理学会と称する。

第2条 本会は地理学についての研究を目的とし、併せて地理教育にも資する。

第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

研究助成、研究発表、調査、講習講演、研究報告書刊行など。

第4条 本会に入会するときは当該年度の会費を添え申込むものとする。

第5条 会員が退会するときはその旨を本会に通知すればよい。

第6条 本会に次の役員を置く。

会長1名、副会長2名、評議員若干名、監査2名、幹事若干名。

第7条 役員のうち会長、副会長、監査は会員の互選によって決定し、評議員、幹事は会長の委嘱による。

第8条 本会に顧問を置くことができる。

顧問は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。

## 則

第9条 総会は毎年1回開催し、予算決算の審議、役員の選出、その他の重要事項について審議する。

第10条 役員会は必要に応じ隨時開催する。

第11条 会員は会費年額2,500円を負担する。但し学生会員は年額1,200円とする。学生会員は、学部学生、大学院生、研究生などとする。

第12条 本会の事務局は当分札幌に置く。

第13条 本会は札幌、函館、旭川、釧路に支部を置く。

第14条 この会則の変更は総会の決議によって行うものとする。

第15条 会計は4月1日より、翌年3月31日までとする。

#### 附則

本会会則は昭和25年12月1日から実施する。

会則第5、6、9、11、12、15、16条、第17回総会で改正。

会則11条改正(1981年6月)。

会則11条改正(1987年6月)。